

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公表番号】特表2008-511635(P2008-511635A)

【公表日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【年通号数】公開・登録公報2008-015

【出願番号】特願2007-530162(P2007-530162)

【国際特許分類】

C 07 D 491/048	(2006.01)
A 61 K 45/00	(2006.01)
C 07 J 69/00	(2006.01)
A 61 K 31/58	(2006.01)
A 61 K 31/4355	(2006.01)
A 61 P 35/00	(2006.01)
A 61 P 35/02	(2006.01)
A 61 P 43/00	(2006.01)

【F I】

C 07 D 491/048	C S P
A 61 K 45/00	
C 07 J 69/00	
A 61 K 31/58	
A 61 K 31/4355	
A 61 P 35/00	
A 61 P 35/02	
A 61 P 43/00	1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月2日(2008.9.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

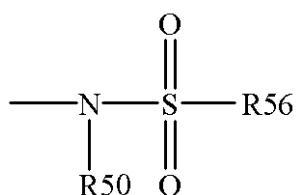
【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

用語「スルホンアミド」は、技術分野で理解されており、以下の一般式で表されてよい
ような成分を含む：



ここで、R50及びR56は、上記のように規定される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

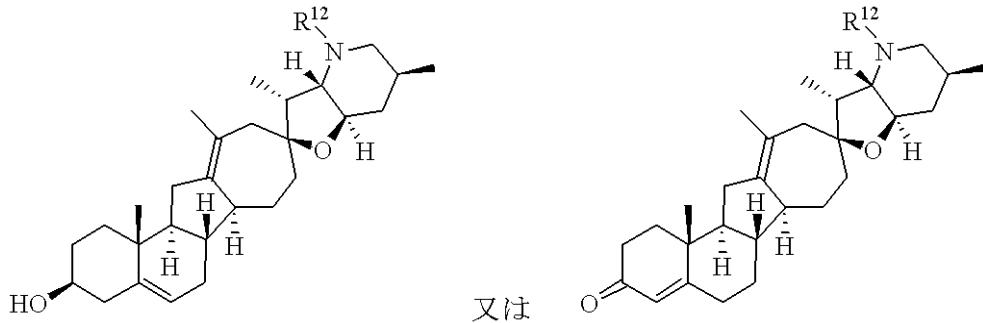
【補正対象項目名】0098

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0098】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、次式の化合物によって表される：



ここで、

$R^{1 \sim 2}$ は、H、アルキル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、ヒドロキシル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、アルコキシル、
 $-C(O)R^{2 \sim 1}$ 、 $-CO_2R^{2 \sim 1}$ 、 $-SO_2R^{2 \sim 1}$ 、 $-C(O)N(R^{2 \sim 1})(R^{2 \sim 1})$ 、 $-[C(R^{2 \sim 1})_2]_p - R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2 \sim 1})C(O)]_q R^{2 \sim 1}$ 、
 $-[(W)-C(O)]_q R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-C(O)O]_q R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-O-C(O)]_q R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-SO_2]_q R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-N(R^{2 \sim 1})SO_2]_q R^{2 \sim 1}$ 、
 $-[(W)-C(O)N(R^{2 \sim 1})]_q R^{2 \sim 1}$ 、 $-[(W)-O]_q R^{2 \sim 1}$ ；
 W はジラジカル；

q は、1、2、3、4、5、又は6；

$R^{2 \sim 0}$ は、H、アルキル、アルケニル、アルキニル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、又はヘテロアラルキル；或いは、任意の二つの $R^{2 \sim 0}$ の存在がまとまって、4～8員の置換されていてもよい環を形成し得るし；

$R^{2 \sim 1}$ は、H、アルキル、アリール、シクロアルキル、ヘテロシクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、又は $[C(R^{2 \sim 0})_2]_p - R^{2 \sim 5}$ ；或いは、任意の二つの $R^{2 \sim 1}$ の存在がまとまって、4～8員の置換されていてもよい環を形成し得るし；

$R^{2 \sim 5}$ は、ヒドロキシル、アシルアミノ、 $-N(R^{2 \sim 0})COR^{2 \sim 0}$ 、 $-N(R^{2 \sim 0})C(O)OR^{2 \sim 0}$ 、 $-N(R^{2 \sim 0})SO_2(R^{2 \sim 0})$ 、 $-COR^{2 \sim 0}N(R^{2 \sim 0})_2$ 、 $-OC(O)R^{2 \sim 0}N(R^{2 \sim 0})(R^{2 \sim 0})$ 、 $-SO_2N(R^{2 \sim 0})(R^{2 \sim 0})$ 、 $-N(R^{2 \sim 0})(R^{2 \sim 0})$ 、 $-COOR^{2 \sim 0}$ 、 $-C(O)N(OH)(R^{2 \sim 1})$ 、 $-OS(O)_2OR^{1 \sim 9}$ 、 $-S(O)_2OR^{2 \sim 0}$ 、 $-OP(L)(OR^{2 \sim 0})(OR^{2 \sim 0})$ 、 $-NP(O)(OR^{2 \sim 0})(OR^{2 \sim 0})$ 、又は $-P(O)(OR^{2 \sim 0})(OR^{2 \sim 0})$ である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0102

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0102】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 $R^{1 \sim 3}$ 、 $R^{1 \sim 4}$ 、 $R^{1 \sim 5}$ 、 $R^{1 \sim 6}$ 、及び $R^{1 \sim 7}$ が水素であることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R^1 が、ヒドロキシル、糖、 $-OP(L)(OR^{2 \sim 0})_2$ 、 $-X-C(L)-R^{2 \sim 1}$ 、又は $-X-C(L)-X-R^{2 \sim 1}$

であるか；或いは、前記 R¹ 及び R² のまとまりに炭素が加わったもの（該まとまりは該炭素と結合している）が、-C(O)-を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0104

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0104】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R⁴ 及び R⁵ のまとまりが、二重結合を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0105

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0105】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R¹ 及び R² がまとまってそれらが結合している炭素と共に、-C(O)-を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0106

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0106】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R¹ がヒドロキシルで、且つ、前記 R² がHであることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0107

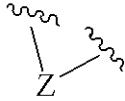
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0107】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R¹ がヒドロキシルで、前記 R² が水素であり；且つ、

前記 R⁵ 及び R⁶ のまとまりが、二重結合を形成するか；又は、前記 R⁵ 及び R⁶ のまとまりが、1 b



(1b)

（但し、ZはC(R²3)(R²3)である）で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

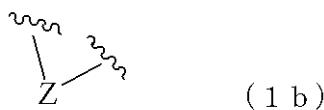
【補正対象項目名】0108

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0108】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが、二重結合を形成するか；又は、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが、1 b



(但し、ZはC($R^{2\ 3}$)($R^{2\ 3}$)である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 9】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R^5 及び R^6 のまとまりが、二重結合を形成し、且つ、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが、二重結合を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 0】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R^1 及び R^2 がまとまってそれらが結合している炭素と共に、-C(O)-を形成し； R^4 と R^5 がまとまって二重結合を形成し；且つ、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが二重結合を形成するか；若しくは、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが1 b



(但し、ZはC($R^{2\ 3}$)($R^{2\ 3}$)である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 1】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記 R^1 がヒドロキシルで、且つ、前記 R^2 が水素であり；前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが、二重結合を形成するか；又は、前記 $R^{1\ 0}$ 及び $R^{1\ 1}$ のまとまりが、1 b



(但し、ZはC($R^{2\ 3}$)($R^{2\ 3}$)である)で表される基を形成することを特徴とする式2によって表される。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0112

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0112】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記R⁸及びR⁹が水素であるか；或いは、前記R⁸及びR⁹がまとまってそれらが結合している炭素と共に、-C(O)-を形成していることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0113

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0113】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記R¹²が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、-[(W) - N(R²¹) C(O)]_qR²¹、-[(W) - N(R²¹) SO₂]_qR²¹、-[(W) - C(O) N(R²¹)]_qR²¹、-[(W) - O]_qR²¹、-[(W) - C(O)]_qR²¹、又は-[(W) - C(O) O]_qR²¹であることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0114

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0114】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記R¹³、R¹⁴、R¹⁵、R¹⁶、及びR¹⁷が水素であり；且つ、前記R¹²が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、-[(W) - N(R²¹) C(O)]_qR²¹、-[(W) - N(R²¹) SO₂]_qR²¹、-[(W) - C(O) N(R²¹)]_qR²¹、-[(W) - O]_qR²¹、-[(W) - C(O)]_qR²¹、又は-[(W) - C(O) O]_qR²¹であることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0115

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0115】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記R⁴及びR⁵のまとまりが二重結合を形成し；前記R¹及びR²がまとまってそれらが結合している炭素と共に、-C(O)-を形成し；且つ、前記R¹²が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、-[(W) - N(R²¹) C(O)]_qR²¹、-[(W) - N(R²¹) SO₂]_qR²¹、-[(W) - C(O) N(R²¹)]_qR²¹、-[(W) - O]_qR²¹、-[(W) - C(O)]_qR²¹、又は-[(W) - C(O) O]_qR²¹であることを特徴とする式2によって表される。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0116

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0116】

ある実施形態においては、本発明の前記化合物は、前記前記 R¹ がヒドロキシルで且つ前記 R² が水素であり；且つ、前記 R¹⁻² が、H、アルキル、シクロアルキル、アラルキル、ヘテロアリール、ヘテロアラルキル、ハロアルキル、ヒドロキシル、アルコキシル、- [(W) - N (R²⁻¹) C (O)]_q R²⁻¹、- [(W) - N (R²⁻¹) SO₂]_q R²⁻¹、- [(W) - C (O) N (R²⁻¹)]_q R²⁻¹、- [(W) - O]_q R²⁻¹、- [(W) - C (O)]_q R²⁻¹、又は- [(W) - C (O) O]_q R²⁻¹であることを特徴とする式2によって表される。